

各事業を行うにあたって、新型コロナウイルス感染症及びその他の感染症対策

1 各事業（リーグ戦、選手権、育成練習会）実施又は中止及び参加者の参加条件について

（1）事業中止事態

国及びスポーツ庁、JBA、山形県、山形県スポーツ庁、県協会の方針に基づき、緊急事態宣言発令及びレベル1の段階で中止とする。

（2）チーム出場停止について

①チーム内（スタッフ及び選手）に感染者がでた場合。

②複数の濃厚接触者がでた場合。

（3）選手の出場停止。

①家族又は学校内で感染者、濃厚接触者がでた場合。

（4）対応

（1）の場合、緊急事態宣言の解除並びに、イベント活動、中学校部活動の対外試合が可能になったら、活動を再開する。

→開催延期できるか判断し、延期して実施可能な場合は実施する。

不可能な場合は今年度の事業を中止する。

（2）の場合、該当チームは①感染者がいなくなって、2週間経過したら出場可能とする。濃厚接触者の場合、チーム関係者全員の陰性が確認されて、2週間が経過していること。（PCR検査が必要とされた人がいたことを想定、検査対象外の人は陰性とみなす）

→該当チームの組み合わせ変更で実施できる場合、該当チームの試合を延期する。

延期できない場合は、当該チームは欠場とする。

（3）の場合、家族内、学校内で感染者がでた場合、濃厚接触者に該当する可能性が高く、陰性が確認されて、2週間が経過していること。（PCR検査が必要とされた人がいたことを想定、検査対象外の人は陰性とみなす）

濃厚接触者が出た場合は、1週間は様子を観ること（PCR検査が必要とされた人がいたことを想定、検査対象外の人は陰性とみなす）

その他確認事項

（1）選手の参加には保護者の同意を必要とする。

（2）保険加入について 育成練習会は参加料の中よりスポーツ安全保険にU15委員会で加入致します。リーグ戦及び選手権大会の参加については各チームで必ず保険加入すること。

（3）JBAが示しているレベル5になるまで当面の間、保護者の方は会場へのご入場は制限する。ただし、リーグ戦及び選手権は各チームビデオ撮影2名、代表者1名（緊急時付き添いのため）合計3名まで会場へ入場を認める。育成練習会においては、救急搬送が必要な時は、保護者に連絡の上、スタッフが付き添う。

（4）試合会場には各チーム消毒（消毒用ボトル2本程度）をできる準備をし、試合後、使用した場所（ベンチ・観客席・更衣室等）を消毒する。

2 次のJBA及び感染症対策を踏まえて活動を実施する。

＝JBAガイドライン策定の基本方針＝

1)安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した、選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフ、それらの方のご家族等が安全に活動できる環境を提供します。

2)「新しい日常」・「新しい生活様式」への適応

Before コロナの「日常」が即座に戻ることは無いということを前提に、置かれた状況の正確な分析・理解に基づくガイドラインを設計します。

3)FIBA再開ガイドライン

FIBA(国際バスケットボール連盟)より再開におけるガイドラインが公開されており、バスケットボール競技の特性を考慮しながら作成します。

4)不当な扱いや差別などの禁止

感染状況で異なる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことはせず、感染状況に起す一切の差別や誹謗・中傷を許容しません。

＝ガイドラインの運用方針＝

1)本ガイドラインの拘束力

本ガイドラインはあくまでバスケットボール活動の再開について、おおよその目安として参照すべき留意点等をまとめたものです。

そのため各団体・チーム等の活動に対して強制力を持つものではありません。

2)本ガイドラインの運用の優先度

本ガイドラインは主に政府の方針や上位団体が作成する指針に基づき、PBAやチーム等が活動する際に参考にするために作成されたものであることから、その適用にあたっては、その時点での政府及び各自治体の方針や上位団体が作成するガイドラインが優先されるものとします。※BリーグやWリーグ等トップリーグの開催/運営においては、各団体が別途作成するガイドライン等がある場合はそれらが優先されます。

3)運用の際の留意点

PBAやチーム等においては、各地域での事業や活動を実施する際には、まずは当該地域での自治体の方針や指導を遵守していただくとともに、選手等の安全を最優先として、活動の開始時期や事業実施の可否について最終的な判断を行って頂くようお願いいたします。

4)事業と活動に分けた判断基準

実際のバスケットボール活動と競技会・講習会事業で判断基準を分けて考えます。活動の可否判断では感染拡大防止及びケガ防止(選手のコンディション)の2点を考慮する必要があり、事業の可否判断では感染拡大防止を考慮する必要があります。

5)本ガイドラインの改定

本ガイドラインは、政府の方針や上位団体の示すガイドラインに変更があった場合や本協会が必要と判断した場合に改定を行うものとします。

1. 活動再開の基準

1) 活動レベルの設定

政府の専門家会議が2020年5月14日に発表した、感染状況に基づく都道府県の3区分をベースに、バスケットボール活動再開の基準とする各活動レベルを設定しました。

感染状況に基づく都道府県の3区分

名称	緊急事態宣言の対象地域	解除地域	
	特定警戒	感染拡大注意	感染観察
判断基準	累積数、経路不明の割合、増加の勢いなどに加え、直近1週間の感染者数も	新規感染者数などが、「特定警戒」の半分程度	感染者数が「拡大注意」の水準に達しない
対応の基本	接触の8割減	新しい生活様式を徹底 必要に応じ自粛を要請	新しい生活様式を徹底
外出	法に基づき外出自粛を要請	不要不急の 他県への移動は避ける	他区分の県への 不要不急の移動は避ける
仕事	出勤者数を7割減	在宅勤務、時差出勤などを推進	必要に応じ、在宅勤務や 時差出勤を進める
イベント	クラスター発生の恐れがあるものや3密の集まりは法に基づき自粛を要請	クラスター、3密となるものは自粛要請、そのほかは予防方針を踏まえた対応	参加者は100人以下、かつ定員の50%以下が開催の目安
施設の使用制限	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大のおそれのある施設の使用制限の要請 感染防止策を講じた上で開放もあり得る 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情により協力要請を実施 注意喚起の徹底 	地域の実情に応じ、法に基づく協力要請も含めて適切に判断

＝ガイドラインの考え方＝

2) バスケットボール事業再開に向けた5つの活動レベル

前述の3区分を基にして、事業実施に伴う移動の範囲などの要素を考慮し活動レベル及びそれぞれの目安となる活動の範囲を設定しました。

- ・「事業」とは、競技会や講習会等を指し、チーム活動と区別します。
- ・下記活動レベルの適用はレベル3までは都道府県/ブロック、レベル4・5は全国規模とし、市区町村単位での扱いは必要に応じて個別の状況を踏まえ主催者が判断してください。
- ・いずれのレベルにおいても、主催者が当該地域の自治体の方針などを優先的に考慮し、最終的な事業実施の可否判断を行った上で、感染拡大防止のための十分な対策を講じることが前提です。

活動レベル	状態		活動の範囲		都道府県/ブロック事業	JBA事業
	自 都道府県	他 都道府県	チーム活動	JBA事業		
レベル1	「特定警戒」	—	完全自粛 個人トレーニングは可能	完全自粛	■活動再開に向けたフィジカルトレーニング動画配信	
レベル2	「感染拡大注意」	—	段階的再開 移動は都道府県内のみ	段階的再開 比較的小規模な事業、都道府県内のみ	<ul style="list-style-type: none"> ■指導者・審判講習会 ■育成センター活動(地区・県) ■都道府県リーグ ■全国大会都道府県予選 	
レベル3	「感染観察」	政府の3区分が混在	段階的再開 移動は「感染観察」もしくは3区分に該当しないエリアに限定	原則再開 同一地域に「特定警戒」「感染拡大注意」の都道府県が無い場合、地域内活動再開	<ul style="list-style-type: none"> ■指導者・審判講習会 ■育成センター活動(U12ブロック) ■ブロック大会 	■エリア別競技会
レベル4	「感染観察」	各都道府県が「感染観察」	状況を考慮し原則再開	原則再開(全国、一部制限あり)	■各都道府県主催の全国規模の大会・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ■国内競技全国大会(一部限定開催) ■ナショナル育成センター活動 ■指導者・審判講習会
レベル5	全都道府県が「感染観察」に該当しない	全都道府県が「感染観察」に該当しない	完全再開	完全再開(全国)	事業再開決定において感染状況の区別以外に考慮すべき要素例 政府及び上位団体の方針 事業や活動の規模 参加者の属性(子ども・成人等)	<ul style="list-style-type: none"> ■国内競技全国大会 ※国際試合の取り扱いとは別途 ■コーチカンファレンス ■全国コーチクリニック

JBA事業の実施にあたっては、都道府県/ブロック事業や、チーム活動・選手の状態への十分な配慮が必要。

ガイドラインの考え方

2. 活動再開時の留意点

1) 各活動レベルにおける事業・活動の実施の考え方

※スポーツ活動に際しては「活動再開ガイドラインの手引き」の段階的活動再開ステップの遵守を推奨します。

活動レベル 1: 当該都道府県が緊急事態宣言の対象地域

- ・複数名が特定の場所へ集合することを伴うすべての事業・活動の実施を自粛してください。
- ・不要不急の外出の自粛、3つの密(密集、密接、密閉)を避けるなど、自己感染を回避するとともに他人に感染させないよう徹底してください。

活動レベル 2: 当該都道府県が感染拡大注意の対象地域

- ・参加者が都道府県をまたいで移動する事業・活動については、自粛してください。
- ・各都道府県知事によるイベントの開催制限が解除となった場合は、比較的小規模な事業について、十分な感染対策を講じた上での PBA 主催事業の実施が可能となります。
- ・比較的小規模とは「最大でも 50 人程度」と想定されます。(施設要件やコートの大ささ、必要最低限のスタッフ等によって適宜対応を推奨します)
- ・なお、観客が想定される事業については原則無観客とし、参加者は移動中の感染リスク対策をしっかりと行うことが求められます。

活動レベル 3: 当該都道府県が感染観察であり、他地域で政府の 3 区分が混在

- ・同一地域内の都道府県が全て「感染観察」で、且つ事業主体 PBA の自治体首長によるイベントの開催制限が解除されている場合は、十分な感染対策を講じた上でブロック事業の開催が可能となります。
- ・各都道府県知事によるイベントの開催制限が解除となった場合は、大規模な事業について、十分な感染対策を講じた上での都道府県内事業が可能となります。
- ・大規模とは屋内についての参加者数は「100 名以下、且つ定員の 50% 以下」が開催の目安となります。(施設要件やコートの大ささ、必要最低限のスタッフ等によって適宜対応を推奨します)
- ・なお、観客が想定される事業については原則無観客とし、参加者は移動中の感染リスク対策をしっかりと行うことが求められます。

活動レベル 4: 全ての都道府県が感染観察の対象地域

- ・各都道府県知事によるイベントの開催制限、他県への移動制限が全ての都道府県において解除となった場合は、十分な感染対策を講じた上で JBA 主催全国大会開催(一部制限を含む可能性あり)が可能となります。
- ・参加者は移動中の感染リスク対策をしっかりと行うことが求められます。
- ・なお、観客が想定される事業については、生命・健康の安全確保を最優先とし動員可能ですが、開催地域の状況に応じて段階的に増員していくことを推奨します。

活動レベル 5: 全ての都道府県で感染観察状態が解消

- ・十分な感染対策を講じた上で全国的規模の JBA 主催事業の完全実施が可能となります。
- ・参加者は移動中の感染リスク対策をしっかりと行うことが求められます。
- ・なお、観客が想定される事業については、生命・健康の安全確保を最優先とし動員可能です。

感染対策方針

主催者は以下の内容を踏まえつつチェックリストを作成して感染対策に取り組んでください。

※チェックリストはサンプルとして捉え、主催者で適時修正してご利用ください。

1. 事前の対応

主催者は、会場において感染対策に向けた準備を行うと共に、参加チームに対して感染防止のために選手・スタッフが遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求めることが重要です。主催者及び参加者(チーム)はそれぞれ感染対策責任者を設置し、事前・事業実施日・事後にお互いが連絡を取り合える環境を構築してください。

なお、事業実施日、事後も含めて以下の項目の実行が難しいと判断された場合は、開催都道府県において集会・イベントの開催が許可された状況下にあっても、事業等の中止・延期を検討頂くようお願いいたします。

※各個人が感染対策を講じることはもちろん重要ですが、仮に誰かが感染した場合でも、濃厚接触者を最小限にする感染対策が、主催者には求められます

1)以下の事項に該当する場合の自主的な参加の見合わせ(事業等当日にチェックリストにて確認)

- ・ 体調が良くない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- ・ 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
- ・ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2)事業等参加者全員のマスク着用

3)主催者が示す注意事項の遵守

4)事業終了後に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の速やかな報告

5)事業実施中は可能な限り行動記録を記載(感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立ちます)

(例)チェックリスト

1 氏名、2 年齢、3 住所、4 連絡先(電話番号、Email アドレス※個人情報の取扱に十分注意)

5 イベント当日の体温

競技会前 2 週間における以下の事項の有無

- ① 平熱を超える発熱がない
- ② 咳(せき)、のどの痛みなどの風邪症状がない
- ③ だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)がない
- ④ 臭覚や味覚の異常がない
- ⑤ 体が重く感じる、疲れやすい等がない
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がない
- ⑦ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいない
- ⑧ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がない

2. 会場における感染対策

- 主催者は以下の点に配慮しつつ、感染対策を講じてください。
- マスクの着用やソーシャルディスタンス確保の徹底、基本的な衛生エチケットを遵守する。
- 審判や会場ボランティア(モッパ等)はマスク等の顔を覆うものを着用することが望ましい。
- 手指消毒液など、試合や練習では広く使用ができるように準備し、参加者/選手、コーチ、審判は頻りに手洗いを実施する。
- スポーツ施設・用具器具、その他の備品も頻りに消毒すべきである。

※バスケットボールの消毒に関しては、ボールそのものの劣化を招く可能性があると言われています。詳しくはお使いの各ボールメーカーの「お手入れ方法」に従ってください。

- 審判は笛の代わりに、電子ホイッスルを使用しても良い。
- 試合前後または試合中に、握手、ハイタッチ等の接触は避ける。

1) 諸室等

イベント等で使用する諸室等において、以下の対応を行ってください。

- 各部屋にアルコール消毒液を設置する。
- 全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
- ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。
- 飲食売店の運営は、安全対策に十分配慮した上で判断する。運営する場合は、イベントクーラーを使用したドリンクの販売は行わない。また、アルコール類の販売も当面は行わない。
- 座席を設置する際に前後左右 1.5~2m 間隔をあげ、お互いが正面に座らないよう配慮する。
- 喫煙所は設けない。

2) 手洗い場所

事業参加者や関係者が手洗いをこまめに行えるよう、以下の対応を行ってください。

- 手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹸を用意することが望ましい。
- 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
(布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。)
- アルコール消毒液を設置する。

3) トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、主催者は以下の対応を行ってください。

- 便器のふたを閉めて汚物を流すよう表示する。
- 手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹸を用意する。
- 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
(布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。)

4) 更衣室・ロッカールーム

イベントや競技会で更衣室やロッカールームを使用する場合、3つの密が揃うため感染リスクが比較的高くなります。以下の準備を行ってください。

- 広さにはゆとりを持たせ、利用者同士が密になることを避けること。
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する、別室を用意するなどの措置を講じる。
- 室内またはスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等)については消毒する。
- 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う。

更衣室等利用者の注意事項

- 利用者はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- 利用者はロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- 利用者はシャワーを交代で使用し、密集を避ける。

5) 参加者が運動・スポーツを行う際の留意点

主催者は、事業等の参加者に対し、以下の留意点や利用者が遵守すべき内容を周知・徹底することが求められます。

(1) 十分な距離の確保

- 1 競技の種類に関わらず、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離(2mが目安)を空けること。(介助者や誘導者の必要な場合を除く)
- 2 強度が高い運動・スポーツの場合は、呼吸が激しくなるためより一層距離を空ける必要があること。
- 3 マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること。

(2) 位置取り

- 1 走る・歩くイベントにおいては、前の人の呼吸の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること。

(3) その他

- 1 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと。
- 2 タオルの共用はしないこと。
- 3 飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしないこと。
- 4 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外に捨てないこと。

6) ゴミの廃棄方法

会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用してください。ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄してください。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒してください。

7) その他

これら 1) ~6) を実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。

主催者及び参加チームは、その点を理解した上で、事業等の実施や参加をしていただくとともに、関係者への周知を行ってください。

また、特に夏場においては、各諸室の窓、ドアの開放、参加者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まります。こまめな水分補給を心掛けましょう。

3. 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報取り扱いに十分注意しながら、イベント等当日の参加者から取得した書面や健康チェックシートを、保存期間(少なくとも3ヶ月)を明記した上で保存しておくようにしてください。

また、スポーツイベント終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく必要があります。

参考文献

- ・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策基本的対処方針」(2020.5.14)
https://corona.go.jp/expert-meeting/pdf/kihon_h_0514.pdf
- ・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」(2020.5.14)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00093.html
- ・スポーツ庁「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドラインについて」
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200514-spt_sseisaku01-000007106_1.pdf
- ・スポーツ庁「学校の体育の授業におけるマスク着用の必要性について」
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200522-spt_sseisaku01-000007433-1.pdf
- ・(公財)日本スポーツ協会「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドラインについて」(2020.5.14)
<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4158>
- ・日本スポーツ協会「【5/25 更新版】スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について」
<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4158>
- ・RETURN TO BASKETBALL FIBA COVID-19 RESTART GUIDELINES FOR NATIONAL FEDERATIONS
<https://www.fiba.basketball/documents/restart-guidelines-for-national-federations-en>
- ・Basketball New Zealand COVID-19 Health & Safety Guidelines for Return to Basketball
<https://nz.basketball/wp-content/uploads/2020/05/BBNZ-Health-Safety-Guidelines-for-Return-to-Basketball-as-at-14-May.pdf>
- ・Centers for Disease Control and Prevention Considerations for Youth Sports
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/community/schools-childcare/youth-sports.html>
- ・Japan High Performance Sport Center 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策としてのスポーツ活動再開 <https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/katudousaikaiguide.pdf>
- ・National Federation of State High School Associations (NFHS) GUIDANCE FOR OPENING UP HIGH SCHOOL ATHLETICS AND ACTIVITIES
https://www.nfhs.org/media/3812287/2020-nfhs-guidance-for-opening-up-high-school-athletics-and-activities-nfhs-smac-may-15_2020-final.pdf
- ・日本サッカー協会 JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン
https://www.jfa.jp/about_jfa/guideline.html
- ・日本サッカー協会 JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン(第1版)
https://www.jfa.jp/about_jfa/guideline.pdf

一般財団法人 山形県バスケットボール協会

活動再開留意点細目(練習・交流ゲーム・各種講習会・リーグ戦・大会等)

【プレーヤー・スタッフ・関係者】

- ・会場入場時に検温を行うこと(平熱より 1° C 程度高い場合は帰宅する)
- ・マスクの着用を義務付けること
- ・準備並びに後片付けは短時間で行うこと
- ・朝自宅にて検温を実施すること(平熱より 1° C 程度高い場合は自宅待機)
- ・プレーヤーは活動参加に際し必ず同意書を提出すること
- ・身体的疲労度合いに配慮した活動時間とすること
- ・関係者は最小限とすること ・会場で水分補給以外の飲食を控えること
- ・水分補給は個人ボトルとすること

【会場関係】

- ・入口と出口を工夫すること(3 密回避・導線)
- ・入口及び洗面所(トイレ)に消毒液を配置すること
- ・ゲームの間にアルコール消毒をすること(ベンチ・TO・ボール他)
- ・会場内フロアは 1 コート 50 名以内とすること(プレーヤー、スタッフ、TO、審判) 【ゲーム運営】
- ・1 チーム 1 日 1 試合を目処とすること
- ・ハーフタイムを 15 分間に設定することが望ましい(換気)
- ・ゲーム間は 20 分とすること(換気・次チームのアップ)
- ・短縮クォーターも想定すること
- ・延長などでゲームが長くなった場合も次ゲームの間は 20 分とすること
- ・ゲームが終了したら換気を十分に行うこと
- ・ハイタッチ並びにハグ等は禁止とすること
- ・ゲーム終了後は選手が退場した時点で次チームが入場する(入口と出口を分ける)
- ・ゲーム終了後はすぐに退館すること(TO を除いて)

【更衣】

- ・男子はギャラリーで間隔を空け、女子は時間調整をして更衣室での 3 密回避に配慮すること

【ウォーミングアップ】

- ・ギャラリーは間隔を空けてストレッチのみ
- ・前ゲームのハーフタイムでのコートアップは禁止 【その他】
- ・当面、すべての活動を無観客とすること
- ・ソーシャルディスタンスに注意すること
- ・来場するチームの体調チェックリストを大会本部事務局へ提出する(各日)
- ・関係者も検温を実施する(役員、審判) ・会場内の消毒を心がけること
- ・会場内に注意喚起の掲示をすること
- ・チーム並びに個人のごみは持ち帰ること
- ・活動中または終了後に感染があった場合、顧問・責任者は、主管事務局に連絡すること

※緊急連絡体制については以下の通りとします。

選手(保護者) → 顧問・責任者 → 主管事務局・カテゴリー理事 → 県協会事務局・専務理事